

1. 確かな学力をつけるための手立てと授業での流れ

**手立て①話し合い活動を通して、筋道を立てて自分の考えを説明できるようにする。**

【C 広げ深める】

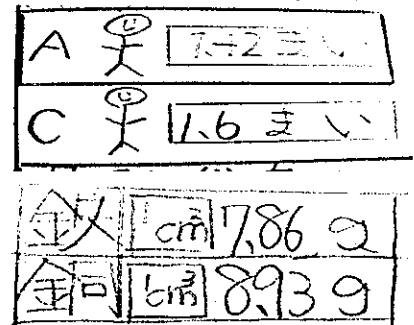
自分の考えを説明したり友達のことを聞いたりすることで、自分の考えを確かなものにし、多様な考えに気づけるようペアやグループ、全体での話し合いの時間を設けた。グループでの話し合いは、理解の難しい児童も他の児童の考え方に触れることで理解を促すことができるように、意図的に組んだ8つのグループで行った。全体での話し合いでは、それぞれのグループから1つの考えを出し、グループの全員で発表させるようにした。他のグループの発表を聞くことで、自分のグループの考え方の相違点や類似点に気づかせるようにした。また、公倍数を用いた考え方や単位量あたりの考え方を比較し、よりよい求め方について考えさせるようにした。



〈グループで考えを共有している場面〉

**手立て②身近な場面の問題や類似問題を解くことで単位量あたりについての理解を深める。**

単位量あたりの考え方は、児童にとって身近な場面から見つけることができる。そこで、学校やスーパーマーケットなど日常生活の中から類似問題を出した。解いていく中で単位量あたりにそろえることを明確にさせるために、式に「10枚÷7人=1.42枚」のように単位を書かせるようにした。また、「1あたり」を意識することができるよう、単元を通して図に表す指導を行った。「1あたりにそろえる」ということを類似問題で繰り返し行ったことで、目的に応じた比べ方について考えさせた。



〈1あたりの考えを図に表したもの〉

2. 成果 (○) と課題 (▲)

- 導入ではエレベーターの絵を比較させることで、「混みぐあい」を理解させることができた。
- 公倍数の考え方や1あたりの考えを比較させる際、D室を提示し、実際に解かせることで1あたりの考えのよさを体感させることができた。
- 類似問題を繰り返し行ったことで、目的に応じた比べ方について考えさせ、単位量あたりについての理解を深めさせることができた。
- ▲児童の予想で、ひき算の考え方を否定してしまったために他の案が出なかった。見通しのないまま自力解決に進み、戸惑う児童が多くいた。多くの予想を出し、見通しをもたせてから自力解決に進むべきであった。
- ▲グループの話し合いでは、考えを深められているグループが少なかった。それぞれが考えのないまま話し合うことは難しかった。

《講師の指導 : 藤崎先生》

- ・自分の考えを式や絵、図にとどまらず、線分図に表せるような指導を行ってほしい。
- ・考えを深め合えるグループ活動でないと、話し合いの意味が薄れてしまう。児童の考えが出てこない場合には、全体での比較検討に入り、考えをもっている児童に発表させることで「考えを繋ぐ指導」をするとよい。
- ・児童が見通しをもたか確認をしてから、自力解決に入るべきであった。どうしても自分の考えをもてない児童は教師のところに集めて手立てのヒントを与えるなど、救済措置があるとよい。